

## 給付金や助成金の活用を支援 組合員相互が融合できる場を提供

近畿印刷産業機材協同組合(加貫順三理事長)は5月12日、大阪・中央区のホテルニューオータニ大阪において第59期通常総会を開催。新旧年度事業および収支予算などを審議し、議案すべて原案通り承認可決された。



▲ 加貫理事長

前年度の同協組は、公的機関による助成金活用支援をはじめとする経営基盤強化支援事業のほか、厚生事業の更なる活性化や人材育成に基づく研修会やセミナーの開催などを積極的に実施してきた。

新年度においても、政府・官公庁の給付金や助成金の活用支援事業を中心に、組合員相互が融合できる場を多く設け、企業間のアライアンスや商品のドッキングなど、コラボレーションできる環境づくりを事業の柱に決めたほか、次世代を担う若手経営者や後継者育成にも積極的に関与・支援していく基本方針を固め、新年度予算2503万円を計上している。

また、役員補充の件では、新理事に有賀賢一氏((株)メディアテクノロジージャパン大阪支店営業部長)を選任。審議終了後には、大阪府商工労働部商工振興室ものづくり支援課産学官連携推進グループの担当者から「大阪ものづくりイノベーションネットワーク」の概



▲ 総会終了後に開かれた懇親会の様子

要や入会メリットについての説明があった。

総会当日19時から催された懇親会の席で挨拶に立った加貫理事長は、「昨年10月のリーマン・ブラザーズの破綻を機に起こった世界的な大不況は現在、当初誰もが予想しえなかった状況をさらに上回る深刻さを呈している。日本経済においても、全産業がこの影響を受け、消費・設備投資低迷に加え、急激な円高による輸出不振、銀行による貸し剥がしなど多くの

マイナス要因から、印刷業界、さらに当協同組合の仲間でも廃業・倒産に追い込まれる企業が出ている」との現状を示した上で、「会員各社ではこの危機に対して自助努力で対応されていると思うが、当協同組合では、これに加えて扶助や公助も大いに活用すべきだと考え、これらの情報を共有しあい、共に今年度も生き抜いていきたい」との考えを述べ、理解と協力を求めた。



▲ 総会の様子

近畿印刷産業機材協同組合

## 第59期 通常総会開く

5月12日、大阪・中央区のホテルニューオータニ大阪で